

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2795900014		
法人名	株式会社 のどか		
事業所名	グループホームのどか住之江		
所在地	大阪市住之江区北島2-2-8		
自己評価作成日	平成 23年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795900014&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『のどか住之江理念』 認知症の理解を深め… 自分の大切な人に接するような気持で…
一人一人の想いを受け止め… 安心して過ごせる「我が家」であるように…
「クリスティーン・プライデンの10のお願い」を心に思い…
「いち日いち談」を心掛けましょう！～利用者さん全員と1日1回必ず話をしましょう～
1日1日を大切に「笑って…泣いて…怒って…」元気に生き生きと過ごしてもらいましょう！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の医療法人が母体になり設立した株式会社運営のグループホームです。同系列には7つのグループホームがあり、さらに今年度1カ所の増設を予定しています。同系列ではグループホーム管理者、主任会議が月1回開かれ、運営について交流するなど、繋がりを活かした取り組みを進めています。当ホームは運営推進会議を2カ月に1回開催し、ホーム運営の詳細部分まで相談して利用者へのサービス向上に努めています。地域連携が良く自治会回覧板等も回してもらい、利用者は地域の一人としての支援を受けています。1階総合玄関が広くガラス張り、景観が良く、利用者の落ち着ける場所にもなっています。職員の今年度目標は『利用者の楽しみごとを支援する』、『利用者が行きたい所に行けるように誕生日企画等で取り組む』、『職員の育成に力を入れて研修を充実しサービスの質の向上を図る』、『事故防止や急変時の備えを強化する』、『その人らしい暮らしの支援を充実する』など、5項目について取り組む予定です。医療連携システムもあり、今後もサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(株)のどかの理念を基本に各事業所、それぞれの特徴を生かした、「のどか住之江」独自の理念を職員と一緒に作り、スタッフルーム・玄関フロアとだれでも見て頂けるように掲げている。	グループホームのどか運営理念の一つに「私たちはグループホームを地域に開かれたものとするとともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支えます」と明記してホーム内に掲示しています。運営理念は、ホーム独自の理念と合わせて職員間で共有し、実践できるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の回覧板を回して頂いています。町内清掃・年末夜回り等にも参加。のどか住之江の行事の際には、参加して頂けるよう声をかけさせて頂いている。又月一回、老人会のボランティアの方に来て頂き、交流を図っている。	町内会との連携が良く、回覧板を回してもらうなど、地域住民の理解を得ています。自治会行事はもちろん、町内の清掃や年末の夜回り等にも参加しています。老人会から月1回のボランティア訪問を受けています。また、体操ボランティア、ハーモニカ演奏や手品ボランティア等の協力を得て楽しんでいます。ホーム主催の「のどか祭り」等では地域にも声をかけ参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に近隣のスーパー・公園・散歩に行く事で、地域の方にも理解・認識して頂けるようにしている。自治会長の方にも、運営推進の報告書・のどか新聞をお渡しし、施設への理解を深めて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。無理のないよう参加して頂くために、日程調整しています。参加者の方にも気兼ねなく発言（意見・質問等）して頂ける様な雰囲気づくりに気を配っています。	運営推進会議は2ヶ月に1回の定期開催をしています。利用者・家族、地域住民代表、地域包括支援センター職員、ホーム職員がメンバーとなっています。最近の議題は入居者現状報告・行事報告・玄関の鍵の開放について・楽しみごと・理念について・他のグループホームとの交流会・誕生日会・外食について等です。会議では積極的な意見や要望、助言が多く出され、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所（ケースワーカー）との情報交換。施設入所の相談等連携を図るよう努めています。 その他、介護保険認定更新時の調査員・あんしんサポート等機会があるごとに情報交換を行っています。	外部評価結果は速やかに区の担当者に提出しています。区の担当者とは情報交換をしたり、利用者の施設入所や自立支援事業について相談をしたりしています。また、事業者連絡会に参加し、区の担当者と情報交換する機会もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には勉強会等で理解を深め、共有認識を図っている。帰宅願望の強い訴えに対し、一緒に外に出て納得されるまで寄り添い見守りしています。昼の時間に各フロア一施錠せず開放しています。その際安全に続けていけるよう、話し合いながら無理のないように実施しています。	運営規程では「利用者の生命又は身体を保護するためにやむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わない」としています。総合玄関、各階の玄関ドアはオートロックにしています。オートロックの横には鍵番号を明示しており、操作できる場合は鍵を開けることができます。現在、ホームでは職員会議で話し合い、昼間の30分のみ玄関ドアに鍵をかけない取り組みをしています。	鍵をかけないケアは認知症ケアの究極的課題でもあります。利用者の安全性を確認しながら、総合玄関にも鍵をかけないケアの実践が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には勉強会等で理解を深め、共有認識を図っている。 身体的虐待だけでなく、精神的虐待（言葉の暴力・行動制限）には特に、常日頃から意識するようになっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会への参加。 必要とされる方へのパイプ役となり支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族との時間を十分にとり、理解・納得された上で同意・契約して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見・不満等には常に耳を傾け早急に対処しています。玄関フロアには、意見箱を設置しています。 来所時には声をかけ、いつでも話しやすい雰囲気作りを心掛けています。 職員には連絡ノート等で全員が知り得る情報として反映させています。	ホームでは、利用者や家族が要望・意見を出しやすくする雰囲気作りに努めています。家族等には月1回利用者の状況を手紙にして送付し、利用者の情報を家族と共有できるようにしています。運営推進会議では、家族等から積極的な意見や要望が出され、ホーム運営に活かしています。ホーム玄関に意見箱を設置しています。	ホームでは今後利用者の急変や事故発生時の備えとして、すべての職員が慌てず、落ち着いて適切な判断や対応ができるような取り組みを予定にしています。取り組みに当たっては、利用者・家族の意向や要望をアンケート等で再確認し、進めたいかががでしょうか。今後、取り組みの成果が期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的（月1回）に行い、意見・提案する機会を設けています。 又、日頃からコミュニケーションを図り風通しのよい、職場であるように心掛けています。	管理者は月1回職員会議を開き、職員の意見や改善案等をまとめホーム運営に活かしています。職員が業務上で気付いたこと、介護上の課題等、なんでも記載できるノート（月間カレンダー）を作成し、記録した内容を共有して支援に活かしています。	職員の個性や長所を引き出し、技術・知識・精神面の質の向上を図るために、研修等を充実する予定にしています。今後の研修の効果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見は全体会議・管理者主任会議等で、統括管理責任者に相談・報告し、より良い環境が作れ、働きやすい職場であるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への参加する機会を設けています。又参加した職員は研修内容を、他の職員に伝えて行くように勉強会等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体会議では、(株)のどか以外の系列施設（訪問介護・デイサービス・ケアプランセンター・高齢者マンション等）との交流会、勉強会を設けられており、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のため、本人からの情報収集がなかなか困難な状況ですが、入所時家族の方にセンター方式記入の協力をお願いしており、信頼関係を確保するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりには、十分気を配り信頼感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めをするには、どれだけの情報を得る事が出来るかであると思っています。しっかりと家族・本人から話を聞くように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を共有することで、上下関係にはならず、同じ目線で共に1日を過ごしているように感じて頂けるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も高齢の方が多くなっています。精神面・身体面・金銭面等での負担・不安を出来るだけ取り除く事で、より良い関係が維持できる様に配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパー・公園・神社に馴染みのある人は、一緒に行くことで、安心感を持ってもらうようにしています。又家族友人からの電話・来訪にて、交流を維持して頂けるように支援しています。	馴染みのスーパーへ買物に行ったり、馴染みのある公園や神社に出かけたりしています。友人が来られたらゆっくりできるように配慮しています。職員は、利用者が電話をかける際にサポートしたり、手紙を投函する支援をしたりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアー同士の助け合いを持ち、出来る方には、お世話をして頂く事もあります。1階2階との交流も常に心掛け、共に生活しているという意識を持って頂けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の面会・葬儀の参列等にも可能な範囲で参加させて頂いています。荷物の整理・処分等も必要に応じて出来る限りの相談・支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話・表情からそれぞれの思いを探り、出来る事は可能な限り実行し、時には家族へ伝え協力を求めています。	日頃から利用者の思いや意向を確認するように努めています。言葉での表現がしにくい利用者には表情や行動、仕草を確認しながら記録(月間カレンダー)に残し、職員間で共有して支援に活かしています。ケアプラン作成時には利用者の意向を確認し、利用者が発言された思いや願いをそのまま記録に残して、ケアプランに反映しています。	ホームでは利用者がよりいっそう楽しく生き生きと過せるように、一人ひとりの思いや願い、楽しみごとを把握し支援する予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・入所までの関係者(ケアマネ)等からの情報収集に努め、回想法・センター方式の情報をもちいて昔話をする事で、本人からも聞きだす工夫・努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りにて、情報の共有を図り、その都度状況に合わせたケアを心掛けています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	連絡ノート・スタッフ会議・カンファ等で現状を把握しそれに沿った介護計画を作成しています。	利用者や家族の意向を確認し、職員の気付きノート(月間カレンダー)で把握した情報を追加し、ケアプランを作成しています。また、医師や看護師からの専門的なアドバイスを重視するとともに、職員会議やケアカンファレンスで話し合い、職員のアイデアを活かした支援をしています。アセスメントやモニタリングは、ケアプラン作成時や見直しの際に行っています。家族にはケアプランについて説明し、了承サインをもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・申し送りノート・連絡ノート以外に月間カレンダーを作成。その日の出来事(ちょっとした言葉・様子)等を自由に書けるようにしており、職員の気づきを大切に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に対応出来るような体制を取れるように努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との交流・消防訓練の依頼等の協力・区民祭り・地域の祭りにも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を、かかりつけ医（主治医）としていますが、本人・家族が希望する今までの主治医への受診も可能であり、共に情報の共有を図りながら連携を保つように支援しています	利用者が入居時にかかりつけの医師がいる場合や、希望する医療機関がある場合には、継続して受診できるように支援しています。希望される医療機関とは連携を密にして、情報交換や受診に際しての支援をしています。また、夜間や急変時に備えて医療連携体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	初期症状を見逃さず、早急に対応できる様常に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリー等で情報の提供をしており、退院時には看護サマリーを頂く事で、退院後の生活がスムーズにいく為連携を保つように心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を、入所時には本人・家族に説明を行い、意思確認をした上で書類の作成を行っており、家族又は本人から延命措置の意思も確認しています。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、本人と家族の了解を得て同意書を交わしています。医療連携体制を取っており、終末期には家族や医師、看護師、ホームの職員が話し合い、支援する用意があります。家族または、利用者が延命措置を希望されるかどうかの意思確認も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回、普通救命救急講習を施設内に消防署の方に来て頂き指導して頂いています。地域代表になって頂いている方を中心に何かあれば協力を求められるような体制を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、1年に2回、消防訓練・自主訓練を実施しています。	非常災害マニュアルに添って年2回の防災避難訓練を行っています。そのうち1回は消防署立ち会いの避難訓練を行い、合わせて救命研修もしています。2階の利用者は、うら階段を下り避難する方法や、玄関から避難する方法など、自室の位置や出火場所により避難口を想定して訓練を行っています。スプリンクラーが設置されており、玄関自動ドアは停電した場合には手動に切り替わるシステムになっています。非常時に備えて、ホーム内に2～3日分の水や食料品等を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、自尊心を傷つけない様な言葉かけ・ケアを心掛け支援しています。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、言葉かけをするなど配慮しています。声の大きい職員は怒っていると誤解をされないように、声のトーンを下げて対応するよう職員間で注意し合っています。職員採用時には個人情報保護に関する契約を交わし、プライバシーの保護については施設内研修を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、思い・希望の言える環境作りに気を配り、何事にも強制することのないよう、可能な限り自己決定して頂くように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に追われる生活でなく、それぞれのペースを大切に、可能な限りその人に合わせた日々を過ごして頂けるように支援しています。職員側のペースにならない様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性には、整髪・化粧・マネキュアをしておしゃれをして頂き、男性には髭そりをして頂いています。いつまでも生き生きとして頂けるように心掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・下ごしらえ・片付けの手伝いをして頂いています。 昼食時には、職員とともに同じテーブルで食事をしており、楽しい雰囲気作りを心掛けています。	ホームでは朝・昼・夕食を手作りしていますが、食材は法人で一括購入され定期的に配送されます。献立は、法人内の各ホームが輪番で作成しています。利用者は職員と共に下ごしらえや片付けなど、利用者の得意なことで活躍してもらっています。時にはバーベキューやすき焼きをしたり、外食をしたりして楽しんでいます。	献立については総カロリーや栄養バランスについて、記載や説明があれば利用者・家族等にわかりやすいのではないのでしょうか。今後は、母体法人と連携して取り組むことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合わせた食事量・食種(キザミ・ミキサー等)により栄養の確保に努めています。本人希望の方には居室でも水分を取って頂けるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回の歯科往診にて口腔ケア・入れ歯調整をしています。また毎食後の口腔ケア(入れ歯を外しうがい)の声掛け・介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成。定期的なトイレ誘導にて、トイレでの排泄に心掛けています。	利用者一人ひとりの排泄時間を考慮してトイレ誘導を行い、自立を目標にした排泄支援をしています。また、できるだけオムツ類は使わないように配慮しています。ほぼ自立している利用者や失禁の少ない利用者にも心を配り、清潔に過ごされるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成、排便の確認には十分気を配り、状況に合わせて便秘薬を調整しながら服用して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛け時、拒否された場合は無理には強制せず、午後から再度声を掛けるようにしています。時には入浴剤を使用。ゆっくりと会話しながら、入浴を楽しんで頂けるように心掛けています。	利用者一人ひとりが2日に1回入浴できるように支援しています。入浴を好まない場合でも、時間を見て声かけを行い、入浴してもらっています。入浴剤を使ったり、ゆず湯をしたり、季節に合わせたお風呂を準備して楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣を大切に、無理に入眠・起床を促すことのないよう、出来る限り本人の意思に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できる所に「薬の説明書」を置いています。変更・追加処方等があった場合は連絡ノートにて、全員が確認できるよう申し送っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割・楽しみを見つけ、生き生きと毎日を過ごして頂けるように心掛けています。誕生月には本人の希望する外出（買物・食事・娯楽）等で、楽しみを持って頂けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難の方には車イスを利用し、出来るだけ外出して頂けるように心掛けています。又年2回の外食・季節に合わせた行事での外出も実施しています。	天気の良い日には公園や近くのスーパーに出かけています。車イスでの外出にも取り組んでいます。普段あまり行けない場所には、行事として出かけています。他のグループホームに招待されて出かけて行き、交流を楽しむこともあります。	今年度は、利用者一人ひとりを対象にして行きたい所への外出ができるように取り組む予定にしています。まず、特別な楽しみごととして誕生月の外出を企画中です。この取り組みにより、利用者の願いが実現することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望により、おこずかいの中で買物と一緒にいき、ご自身でお金を支払って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している	本人の要望により、家族・知人等への電話。手紙のやり取りができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設と言うよりも「我が家」であるように生活感を出せるような工夫・配慮を心掛けています。	ユニット玄関や廊下には最近の利用者の写真を展示したり、手作りの飾り付けをしたり、馴染みやすい雰囲気作りに努めています。居間兼食堂は明るく、手洗いが設置されている壁いっぱいに鏡が張られるなど、清潔感があります。1階の総合玄関は広々としてガラス窓が多く、周辺の景色を見ることができます。	今後は、1階の総合玄関を利用者が落ち着ける場として設定してはいかがでしょうか。具体的には、机とイスをコーナーに配置して、利用者が外来者と面談をしたり、気分転換する場所として活用してはいかがでしょうか。また、利用者が2階から階段を使用して下りられる際に、慌てて転落されることが無いよう、階段の入口に鍵を付けない簡易柵を設けてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所を持って頂き、共同生活の中でも居心地の良い空間であるよう、心掛けています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ家族にお願いし、馴染みの品・使い慣れたものを持参して頂けるようにしています。	居室には表札があり、利用者に分かりやすいようにしています。利用者や家族はそれぞれ馴染みの家具を持参し、ぬいぐるみや家族写真、仏壇、手作り作品などを飾って、居心地良く過せるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに合わせ、自立した生活が維持できる様に支援しています。		